

中核機能強化（事業所）加算における地域の障害児に対する支援体制の状況及び中核機能としての体制の確保に関する取り組みの実施状況について（令和7年度実施分）

4つの中核機能（①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能）、②地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能、③地域のインクルージョン推進の中核機能、④地域の発達支援に関する入口としての相談機能）についての実施状況は以下の通り。

① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能

○自立支援協議会（こども部会、教育部会、相談支援東部部会）に参画。

- ・こども部会（2ヶ月に1回実施）では主に「事業所間の顔の見える関係づくり」と「地域の支援力の向上」を目標に市内の5センターと協力して、企画・立案をし、実行した。情報交換に始まり、テーマに沿ったグループワークを毎回行い、見えてくる地域の課題を全員で共有した。
- ・教育部会（2ヶ月に1回実施）では学校と福祉の連携を図ることを目的として協議を行った。主に2つのワーキンググループによる活動を実施した。一つ目は児童を対象とした福祉サービスの説明資料「フクセツキッズ」の作成である。この資料については協議会ホームページである「え〜んじゃネット」にも掲載をし、どなたでも閲覧できるように対応した。2つ目は教員と相談支援専門員が相互に学べる場、話せる場を設定するため座談会形式の研修を年2回（8月、2月）に実施した。座談会では各方面で作成される支援計画の相互理解を深めるとともに、事例検討を通して、教育と福祉の連携の在り方について共通理解を図った。
- ・相談支援東部部会（毎月実施）では関係機関からの以下の情報提供を受ける中で社会の動向とニーズ把握に努めた。

●地域共生社会推進計画（岡山市社会福祉協議会）

●福祉避難所（岡山市保健福祉局福祉部保健福祉企画総務班）

また、岡山市内の介護支援専門員との交流会を実施し、介護保険サービスと障害福祉サービスの連携の重要性及び留意事項（各サービスで支援出来ること、支援出来ないことが異なるため、事前に本人及びご家族へ十分な説明が求められること）を確認した。加えて、GSVを通して相談員の支援の質の向上を図った。

○同一法人内に指定放課後等デイサービス事業所（旭川児童院通園センター、わかくさ学園いちご）があり、引き続き連携を取っている。

○地域で生活する障害児を育てる学齢児（一部未就学児）の親が集まり、交流やピアカウンセリングを行う機会（たんぽぽサロン）を提供した。年に3回実施し、計87名

が参加した。フリートークの他、講師を招いて「性教育についての話」をしたり、先輩保護者による「将来に向けての話」を行った。

② 地域の障害児支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能

○市内の障害児通所支援事業所等に向けて「ABA の視点によるこどもの行動理解と支援方法の検討」についての講演会を実施した。計 35 名の参加者であった。

○東区及び中区の障害児通所支援事業所等が参加できる研修会等を 3 回開催し、計 58 名の職員が参加した。情報共有の場を設けることで療育の質の向上、横のつながりの強化を図った。

○地域の児童発達支援事業所からの希望を受け、見学の受け入れを 1 件行った。発達支援を行う上での情報共有と役割分担の工夫を知ることが目的として、療育の様子を見学してもらうとともに、情報交換を行った。

○地域の児童発達支援事業所のグループからの要請を受け、「家族・保護者を支援する」と題して、事業所職員向けに障害受容の段階や傾聴、アドバイス方法等、失敗例も含めて話を行った。全体で悩みを共有することが出来た。

③ 地域のインクルージョン推進の中核機能

○保育所等訪問支援を実施。今年度は「4 件」の支援を行った。訪問先の内訳として、保育園 1 件、こども園が 1 件、幼稚園 2 件であった。園での様子を見学させてもらった上で、本人が持っている力を発揮できる環境の設定や支援方法について助言を行った。また、園での様子を保護者にフィードバックした。

④ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

○電話やメール、面談により相談支援を実施。子どもの発達の遅れを心配される方に対して、医療機関や福祉サービスの紹介、関係機関との連絡調整を行った。また、希望された方には相談支援事業所の紹介を行った。

○障害が疑われるこども、初診や療育待ちのこどもに対しての集団活動の経験の場を提供する目的で「ひよこ教室」を年 2 1 回開催した。ひよこ教室では保護者からの相談に応じ、同じような悩みを抱えられている保護者同士の出会いの場も提供した。